

## イベントレポート 『2011 K耐久東海シリーズ 第2戦』

開催日 2011年5月15日(日)

13:00 決勝スタート 16:00 チェッカー

天候 晴れ

最高気温 24.1 (13時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 34台

開幕戦が東日本大地震の影響で1ヶ月延期されたため、わずか4週間のインターバルでの開催となった第2戦。今回も「東日本大震災チャリティーイベント」して開催され、会場の募金箱には多くの寄付金が寄せられた。

五月晴れで初夏を思わせる陽気の中、開幕戦より6台多い34台が熱い戦いを繰り広げた。



### KNNクラス(軽NAのノーマルクラス)

今年から新設されたこのクラス。車両重量はノーマル状態と同じ、LSDは装着禁止など、新たにマシンを製作して参加するようなチームでもエントリーしやすいように設定された。

開幕戦ではエントリー台数が3台であったが、第2戦では一気に6台のエントリーで激戦区となった。

今回、新規格のミニカが新たにエントリーしてきたため、新規格車は合計3台となる。新規格車両は3回の義務ピットインでそれぞれ1分ずつのピット時間短縮ハンディーが与えられるが、これを生かして上位に位置することが出来るのか。

### 予選

予選1番時計を叩き出したのは、開幕戦の優勝チームNo.100「HACもらいものビート」でタイムは1'11.051。これを初参加のNo.60「明智自動車S Pトゥデイ」が1'11.665で追いかける展開で、上位2台は旧規格車両が独占する形になる。

3位には開幕戦2位の新規格車両No.39「ステージワンレーシングアルトV」が1'13.770のタイムで付ける。

4位は今年初参加となるNo.97「TSRトゥデイ」が1'16.120で続く。

以下5位には開幕戦3位のNo.444「team YKSR ALTO」、6位には初参加のNo.383「カワセミブルー ミニカ」と続く。

### 序盤

1時間が経過した時点での1位は1回目のピットインを先送りする作戦を取ったNo.39「ステージワンレーシングアルトV」で、39Lapを周回する。

これを予選1番手からスタートしたNo.100「HACもらいものビート」が36Lapで追いかける。

3位から5位までは35週の同一周回で僅差の争いとなる。3位にNo.60「明智自動車S Pトゥデイ」、4位にNo.97「TSRトゥデイ」、5位にNo.444「team YKSR ALTO」と続く。

6位のNo.383「カワセミブルー ミニカ」は32Lapと少し遅れを取る。



## 終盤

2 時間が経過したところでは、No.100「HACもらいものビート」が 76 周で 1 位に立つが、2 位の No.39「ステージワンレーシングアルトV」も同一周回で優勝争いに踏みとどまる。

3 位は少しずつ順位を上げてきた No.444「team YKSR ALTO」が 74Lap で追いつがる。

4 位の No.60「明智自動車SPトゥデイ」と 5 位の No.97「TSRトゥデイ」は 72 周にとどまり、トップを狙うには厳しい状況に。

No.383「カワセミブルー ミニカ」は 64 周で 6 位に付ける。



## 最終結果

1 位でチェッカーを受けたのは No.100「HACもらいものビート」。108 周を走り切り、開幕から 2 連勝を飾った。

2 位は No.39「ステージワンレーシングアルトV」でトップにはわずかに 1 周及ばなかったが、2 戦連続での 2 位と着実にシリーズポイントを重ねた。

3 位と 4 位は 105 周の同一ラップ。この争いを制したのは No.444「team YKSR ALTO」であった。No.60「明智自動車SPトゥデイ」は表彰台にあと一步届かなかった。

以下 5 位の No.97「TSRトゥデイ」は 98Lap、6 位の No.383「カワセミブルー ミニカ」は 92Lap という結果に終わった。

第 3 戦では No.100「HACもらいものビート」はいよいよ 20Kg のハンディーウエイトを搭載する。これがトップ争いにどう影響してくるのか。





## KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

今回は4台のエントリーとなったこのクラス。顔ぶれを見てみると、過去に上位入賞歴のあるチームが名を連ねる。マシンの改造範囲が絞られているだけに差が付きにくく、スタート前から混戦を予感させる。

### 予選

予選は予想通り僅差の展開となる。

1番手となるタイムをマークしたのは No.911「CRAZZYZY JA4」で、1'09.249を記録。

2番手に付けたのは No.10「ぼんこつRTトゥデイ」で、タイムはトップから遅れることわずか 0.27 秒の 1'09.523。

3番手には No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」が入り、1'09.974とやはり僅差のタイムをマーク。

前回優勝の No.25「アカミネコマル2トゥデイ」は 1'10.113 の好タイムながら、4位に甘んじる。

### 序盤

1時間が経過した時点では No.10「ぼんこつRTトゥデイ」が 38Lap で1位に立つ。

2位と3位は僅差の 37Lap で No.911「CRAZZYZY JA4」と No.25「アカミネコマル2トゥデイ」が追いかける。

No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」は接触やスピンといったアクシデントに見舞われ、32周と出遅れてしまう。

### 終盤

2時間経過時点でのトップはなおも No.10「ぼんこつRTトゥデイ」で 79Lap を周回。

これを追う2位には No.25「アカミネコマル2トゥデイ」が 78Lap でピタリと追走。

3位の No.911「CRAZZYZY JA4」は 76Lap にとどまるが、他のチームよりもピットイン回数が1回多いため、実質は1位に位置する状況。

4位の No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」は 73周と、やや挽回を見せる。

### 最終結果

1位でチェッカーを受けたのは、No.911「CRAZZYZY JA4」であった。112周を走り切り、今年初参戦でいきなりの優勝となった。

2位と3位はそれぞれ 111周で、その差は何と 1.3秒。この接近戦を制したのは No.25「アカミネコマル2トゥデイ」であった。No.10「ぼんこつRTトゥデイ」は惜しくも3位となる。

4位は 106Lap の No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」が入る。序盤のアクシデントでのロスが、そのまま最後まで響いた結果となった。

ワンミスで大きく順位が変動してしまうこのクラス。次回も緊迫した争いが繰り広げられそうである。





### KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

開幕戦では8台のエントリーがあったこのクラス。今回はさらに台数が増え11台のエントリーとなる。

今回は実績のあるチームがリタイヤやマシントラブルなどで沈んだが、今回はどのような展開となるのか。

#### 予選

予選1位となったのは昨年度のチャンピオンNo.223「掛川ポチポチデンナートゥデイ」でタイムは1'05.783をマーク。開幕戦でも予選1番時計をたたき出しながらマシントラブルでピットスタートとなったが、今回は無事にスタートラインに付く。

2位には今年初参加のNo.24「鈴鹿カーケアオフィストゥデイ」が1'06.379のタイムで入る。

3位は2位から遅れることわずか0.12秒の1'06.495で、前回優勝のNo.50「ベストライフトゥデイ」が続く。

4位にも今年初参加となるNo.296「小山輪業トゥデイKR-O」が1'07.040で入り、初参加勢の健闘が光る。

以下5位に1'07.427でNo.90「ガレージライトトゥデイ」、6位に1'07.799でNo.23「チームミニトゥデイ」、7位に1'08.019でNo.69「タカタCCMC」トゥデイが続く。

#### 序盤

1時間経過時点では、予選10番手からスタートしたNo.268「HOT-Kアルトバン」が1位にジャンプアップし、開幕戦2位の実力の片鱗を見せ付ける。

トップと2周差の39Lapには、2位から4位までの3チームが付ける展開。2位のNo.50「ベストライフトゥデイ」は開幕2連勝に向けて絶好のポジション。

3位には予選2位スタートのNo.24「鈴鹿カーケアオフィストゥデイ」が好位置をキープし、4位にはNo.23「チームミニトゥデイ」が上がってくる。





また 5 位から 8 位までは 38Lap の同一ラップでの争い。

5 位に No.296「小山輪業トゥデイKR - O」、6 位に No.99「チームオーシャンズトゥデイ」、7 位に No.90「ガレージトライトゥデイ」、8 位に No.7「あんじょうトゥデイ」と続く。

#### 終盤

2 時間が経過した時点では、No.50「ベストライフトゥデイ」が 83Lap で 1 位に浮上してくる。

2 位の No.268「HOT - Kアルトバン」と 3 位の No.23「チームミニトゥデー」は 82Lap でトップを逃走。

4 位には 81Lap で予選 1 位の No.223「掛川ポチポチデンナートゥデイ」が上がってくる。

5 位から 8 位は 80 週の同一ラップで No.99「チームオーシャンズトゥデイ」、No.24「鈴鹿カーケアオフィストゥデイ」、No.90「ガレージトライトゥデイ」、No.296「小山輪業トゥデイKR - O」がしのぎを削る。

9 位の No.7「あんじょうトゥデイ」と 10 位の No.69「タカタCCMC」も 79Lap と、ラップ数から考えるとまだまだ上位入賞のチャンスを残す。

#### 最終結果

このクラス、トップでチェッカーを受けたのは 117 周を走りきった No.69「タカタCCMC」であった。早目に義務ピットインを消化する作戦に出たため途中経過では上位に来ることが無く、ノーマークの状態であったが、見事な作戦で勝利を収めた。

2 位には 116Lap で No.50「ベストライフトゥデイ」が入る。開幕 2 連勝は果たせなかったが、シリーズ争いでは大きなポイント獲得となった。

3 位と 4 位の差はわずか 0.16 秒。この激しい 3 位争いを制したのは No.23「チームミニトゥデー」であった。4 位の No.223「掛川ポチポチデンナートゥデイ」は表彰台にあと一歩及ばなかった。

5 位の No.99「チームオーシャンズトゥデイ」と、6 位の No.24「鈴鹿カーケアオフィストゥデイ」は 114 週の同一ラップ。

また 7 位の No.90「ガレージトライトゥデイ」、8 位の No.296「小山輪業トゥデイKR - O」、9 位の No.268「HOT - Kアルトバン」は 113 週の同一ラップと、非常にレベルの高いところでの争いとなった。

ワンミスで大きく順位が落ちてしまうこのクラス。第 3 戦は 4 時間の長丁場となるが、ミス無く上位ポイントを獲得できるのはどのチームになるのか。



## KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

6台のエントリーとなったこのクラス。各チームとも2戦連続での参戦であるが、うち3チームは開幕戦ではノーポイントに終わっている。これらのチームはシリーズを戦う上では今回は非常に重要な1戦となるが、上位ポイントを獲得することができるのか。

### 予選

予選1位となったのは、No.79「連邦仕様カプチーノ0号機改」でタイムは1'08.084。わずか0.13秒差の2位にはNo.15「ガレージイシヤマセルボモード」が入る。

3位にはNo.21「ZEST Lubrossセルボ」が1'10.138で続く。2位と3位の2チームは開幕戦でノーポイントに終わっているだけに、挽回に向けては絶好のポジションに付ける。

4位は開幕戦優勝のNo.392「Zammers ヴィヴィオ」が1'10.494で入る。

以下5位にNo.112「白須賀会カプチーノ」が1'11.663、6位にNo.46「カーエナジーワークスアルト」が1'13.874で続く。

### 序盤

1時間が経過した時点でのトップは38周を周回したNo.15「ガレージイシヤマセルボモード」。同一ラップでの2位にはNo.46「カーエナジーワークスアルト」が浮上してくる。

3位は予選1位スタートのNo.79「連邦仕様カプチーノ0号機改」が37Lapで付ける。

4位から6位は36週の同一ラップでの争い。No.112「白須賀会カプチーノ」、No.392「Zammers ヴィヴィオ」、No.21「ZEST Lubrossセルボ」と続くが、全チームが2周の中に入っており、どのチームにも優勝のチャンスが残る。

### 終盤

スタートから約70分が経過したところで、トップを走行していたNo.15「ガレージイシヤマセルボモード」がスローダウン。エンジントラブルでリタイヤとなってしまふ。

2時間の時点で1位に立ったのはNo.79「連邦仕様カプチーノ0号機改」で79Lapを周回。

2番手争いは熾烈で、No.392「Zammers ヴィヴィオ」、No.21「ZEST Lubrossセルボ」、No.46「カーエナジーワークスアルト」の3チームが76Lapの同一周回に並ぶ。

また5位のNo.112「白須賀会カプチーノ」も75Lapと、まだまだ表彰台の可能性を残す。

### 最終結果

終盤までトップを走行していたNo.79「連邦仕様カプチーノ0号機改」であったが、ペナルティー表示を3周見過ごしてしまい、失格の裁定を下される。

この結果、トップでゴールを迎えたのはNo.46「カーエナジーワークスアルト」であった。108周を走り切り、開幕戦リタイヤのリベンジを見事に果たした。





2位となった No.21「ZEST Lubrossセルボ」もトップと同一の108周を走行。このチームも開幕戦はリタイヤに終わっており、今回見事に上位ポイントを獲得した。

3位は107周を走りきった No.392「Zammersヴィヴィオ」。開幕戦での優勝に続き、今回も表彰台をゲットした。

4位の No.112「白須賀会カプチーノ」は106Lapを周回したものの、表彰台にはあと一歩届かなかった。

このクラスも全てのチームの実力が非常に拮抗しているため、どのチームが上位になるか予想が難しい。第3戦はどのようなオーダーとなるのだろうか。



## KTOクラス(軽ターボのオープンクラス)

開幕戦では9台の最多エントリーとなったこのクラス。今回はエントリーが2台減ったものの7台が集まり、ハイレベルな戦いが繰り広げられた。

### 予選

予選では最速クラスにふさわしく、総合上位3台をKTOクラスのマシンが占める。ポールポジションを獲得したのは幕戦の勝者 No.14「ガレージシヤマアルトバン」でタイムは1'04.278をマーク。

2番手にはNo.210「ZEST Lubrossアルト」が1'05.590で、3番手にはNo.666「ヴィスコンティ!MWあると」が1'05.635で続き、開幕戦の最終結果そのままのオーダーとなる。

4番手はNo.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」は1'05.967、5番手のNo.55「アピリティーガレージワークス」は1'06.082、6番手のNo.777「ナルミファクトリーアルト」は1'06.488と、ほとんどタイム差が無く、決勝ではワンミスが命取りとなりそうな状況である。

### 序盤

決勝は序盤から、予選上位のチームが快調に飛ばす。1時間経過時点ではNo.14「ガレージシヤマアルトバン」が44Lapで1位、No.210「ZEST Lubrossアルト」が43Lapで2位と、3位グループに対して頭一つリードする。

3位争いは3チームが39Lapの同一周回でしのぎを削る。3位にNo.666「ヴィスコンティ!MWあると」、4位にNo.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」、5位にNo.55「アピリティーガレージワークス」と、ここまでは何と予選結果そのままのオーダーとなる。

6位には希少なミニカで参戦のNo.32「爆走 あばれ馬レーシングミニカ」が37Lapで続き、7位のNo.777「ナルミファクトリーアルト」も同一の37Lapを周回する。

### 終盤

約80分が経過した時点でNo.777「ナルミファクトリーアルト」がエンジンの不調を訴えリタイヤしてしまう。

2時間時点での1位はなおもNo.14「ガレージシヤマアルトバン」で84Lapを周回。

2位には82LapでNo.666「ヴィスコンティ!MWあると」が浮上してくる。

3位のNo.210「ZEST Lubrossアルト」は81Lap、4位のNo.78「ガレージ風屋チャレンジアルト」は80Lap、5位のNo.55「アピリティーガレージワークス」は79Lap、6位のNo.32「爆走 あばれ馬レーシングミニカ」は78Lapと、きれいに1周ずつの差になる。

僅差だけにワンチャンスで順位が大きく入れ替わる可能性を秘めている。

### 最終結果

ポールスタートから終始レースをリードしたNo.14「ガレージシヤマアルトバン」が118周でトップチェッカーを受けた。

2位のNo.55「アピリティーガレージワークス」は117周と惜しくもトップに届かなかった。

3位には116周でNo.210「ZEST Lubrossアルト」が続いた。





4位と5位は115周の同一ラップ。No.78「ガレージ尻屋チャレンジアルト」が7秒差でNo.666「ヴィスコンティBMWあると」を振り切った。

6位のNo.32「爆走 あばれ馬レーシングミニカ」は111周でフィニッシュした。

次回第3戦は7月の開催となり、チューニングターボ車には厳しい暑さとなるであろう。暑さとの戦いを制して上位に食い込めるのはどのチームとなるのか。

